



114
A1445



政府財政計畫ノ困難ト經濟界一般ノ窮狀トハ吾人ノ均
 タルノ分義ナルベシト信ス而シテ軍備擴張其他戰後經
 營ニ付テ今更ノ如ク其利害得失ヲ歎々スルモ益ナシ既
 ニ已ニ一定ノ國是トシテ着々進行シツ、アルノミナラ
 ス又各國ノ注目スル処ナルヲ以テ國家ノ面目上之ヲ中
 止スルヲ能ハザルハ何人モ識認スル処ナリ然レ既定
 ノ財政計畫ヲ繼續スレバ勢ヒ不生產的ノ通貨ヲ散布シ
 其結果ハ購買力ノ増加ヨリ物價ノ騰貴ヲ促カシ延テ輸
 入ノ超過トナル於此乎金利ヲ引上げ通貨ヲ縮少シテ以
 テ物價ノ騰貴ヲ抑へ輸出入ノ平均ヲ保タントスト虽レ
 單ニ通貨ヲ減少スレバ延各種ノ財政計畫ヲ縮小スルニ



ヲラザレバ通貨膨脹ノ源流ヲ塞クハ能ハサルヲ以テ其
結果タル物價ノ騰貴又輸出ノ不平均ヲ制スルハ能ハ
サルハ誠ニ免カレ難キノ數ナリ然レモ輸入超過必スレ
モ憂フベキモノノミニ非ス本年上半期間ノ輸入超過殆
ント貳千四百萬山ニ達シタレモ其内砂糖及下等洋織物
ノ増加シタルハ衆民生活ノ度ヲ進メタルノ結果ニレテ
其外贅澤品ハ漸ク減少シテ製造品原料若クハ機械鐵軌
ノ類最モ大部分ヲ占メタル如キ國力進歩ノ原素ニレテ
寧ロ喜フベキノ現象ナリ然レモ輸入超過ノ聲ノミヲ聞
テ其実ヲ究メス徒ニ通貨ヲ縮少セントスルハ決シテ策
ノ得タルモノト謂フ可ラズ加之今ヤ政府ハ賦課上ノ缺
乏ニ苦ミ經濟界モ亦衰退ヲ極ムルノ時ニ當リ遽カニ消

極的ノ傾向ヲ現ハスニ於テハ實業界ハ遂ニ不振挫折ノ
極ニ陥リ再ヒ起ツ能ハサルニ至ラントス故ニ政府宜シ
ク従前ノ如ク積極的方針ヲ以テ萬事ヲ經營シ既定ノ計
畫ヲ進ムルト共ニ普ク生産事業ヲ振興シ大ニ税源ヲ開
拓セサル可ラズ思フニ政府ハ經常歳出ヲ支フル為ニハ
勇斷ヲ下シテ新ニ地租酒造稅砂糖稅等ヲ増徴シ永ク出
入ノ平均ヲ保ツノ基礎ヲ定ムルヲ可トスト信スレモ應
急焦眉ノ策トシテハ夫唯低利ノ外債募集ニ俟ツノ外ア
ラサルベシ須ラク低利ノ外債ヲ移入シテ高利債ヲ償還
シ歳出ノ一部ヲ輕減スルト俱ニ民間ノ事業資本ヲ充實
スベシ資本既ニ充實シテ金利低落スレバ生産事業ハ駸
々トシテ進歩發達シ數年ヲ出テスレテ實業界ノ面目ヲ

一新シ國力ノ増進ト同時ニ人民モ納税ノ重キヲ辭セス
優ニ外債ノ元利ヲ償還シ得ルノ域ニ達スルヲ敢テ難カ
ラサルベレ然ルニ論者アリ曰ク人為ニ依リ強テ外資ヲ
移入シ金融ヲ緩慢ナラシムルノ結果再ヒ泡沫的會社ノ
濫興ヲ生スベシト或ハ然ラン乎然レモ事業勃興ノ氣運
ニ際シテ泡沫會社ノ伴生スルハ何レノ時ト至レ免カレ
難キモノナルガ故ニ其興廢ハ自然淘汰ニ任セルノ外ナ
シト至レ強テ之ヲ制セント欲スレバ政府ハ其不確實若
クハ不急ノ事業ト認ムルモノハ不認可權ヲ應用シテ漸
然却下シ濫興ノ流弊ヲ矯正スルヲ得ベシ或ハ又既ニ
通貨膨脹シテ物價ノ騰貴ニ苦ミナカラ更ニ外資ヲ輸入
セバ遂ニ其弊ニ耐ヘララント論ユレモ今日ハ通貨膨脹

シテ而モ資本ノ缺乏ニ苦ムル時ナリ是皆戰事中多ク不
生産的金錢ヲ散布シタルノ餘弊ト戰後財政計畫ノ然ラ
シムル處ニシテ即チ資本缺乏事業沈衰ノ悲觀ヲ現出セ
シ所以ナリ由之考フレバ資本充實ノ策ヲ講スルハ實ニ
目下ノ急務ナリ而カモ資本豊カニシテ事業隆興ノ結果
ハ必ズ購買力ノ増加ヲ招キ物價騰貴ノ因トナルハ到底
避クベカラザルノ數ナルヲ以テ之ヲ救治スルノ策ニ付
テハ未タ最良ノ方法ヲ見出ス能ハスト至レ免ニ角博ク
勤儉ノ美風ヲ奨励シ普ク貯蓄ノ方法ヲ勸誘シテ個人
ノ手裏ニ在ル通貨ヲ吸收シ以テ過度ノ購買力ヲ抑制ス
ルト共ニ速ニ資本力ヲ回復シ能ク循環運用ノ妙ヲ尽サ
ル可ラズ如此上下一致熱誠以テ事ニ従ハバ生産事業

ノ突達ト戦後ノ経営ト両々相俟テ遂ニ完美ノ域ニ達ス
ル一決シテ至難ノ業ニアラサルナリ
茲ニ又一言ノ止ムベカラサルハ台湾ノ経営業是ナリ同
島ノ統治如何ハ大ニ我皇威國光ニ関スルノミナラス今
又禍心ヲ抱藏スル各國注視ノ焦點トナリ速ニ治績ヲ舉
クル一能ハサレバ或ハ不測ノ禍ヲ生スル一ナキヲ保ス
可ラズ決シテ區々ノ情実若クハ財政ノ困難ニ藉口シテ
苟安ヲ貪ルベキノ時ニ非サルナリ然ルニ今日尚土匪ノ
禍根ヲモ草泥スル一能ハサルハ統治者甚入ヲ得サルニ
モ因ルヤレト至モ全ク交通機關ノ不備ニ皈セサルヲ得
ス故ニ吾人ノ望ム処ハ外交上ノ關係ト軍事ヲ除クノ外
ハ都テ總督ニ自治獨立ノ全權ヲ委子特ニ台湾公債ヲ外

國ニ募ツテ速ニ交通機關ヲ整備シ併セテ台湾ノ修葺産
業ノ奨励等大ニ拓殖ノ方法ヲ尽スマシ如此シテ遺算ヲ
カラシムバ期年ヲラスシテ必ス治績ノ見ルベキモノア
ルノミナラス内ハ歳計ノ缺乏ヲ補ヒ外ハ各國ノ輕侮ヲ
防キ始テ同島割取ノ面目ヲ保全スルニ足シ歟
終ニ臨シテ更ニ一言スバキハ頃日来經濟界ノ一問題ト
ル日本銀行ノ營業方針ヲ議シ或ハ岩崎總裁ノ行為ヲ是
非スルノ説稍々囂レキ一ナルガ其金利引上ノ如キ或ハ
少レク時機ヲ失シタル歟ノ感ナキニ非サレハ岩崎總裁
ノ一家ニ對スル行為ヲ云々スルハ深ク顧慮スルノ價値
ナキモノト思惟セリ然レモ岩崎氏ハ我國ノ大富豪トシ
テ自家ノ經營ニ繫ル事業極メテ多種多端ナレハ其一舉

一動モ悉ク經濟界ニ影響ヲ及ホスハ誠ニ是非ナキ次第
ト云フベシ去リ總裁ノ地位ヲシテ妄リニ動搖セシム
ルハ經濟界ノ為メニ決シテ得策ニアラザルノミナラズ
現總裁ノ如キ其經歷信用名望共ニ併有スルノ人士ハ蓋
シ復タ得易カラズ唯自家ノ財力既ニ經濟界ヲ壓スルニ
足リ加フルニ國家金權ノ樞軸ヲ掌握セラル、ヲ以テ輒
モスレバ世ノ批難攻撃ヲ免カル、一能ハサルモノアリ
依テ吾人以為ラク宜シク日本銀行ノ組織ヲ更革シテ總
裁ハ自ラ實務ノ衝ニ當ラズ理事合議制度ニ依テ万事ヲ
処理セシメ總裁ハ其德望信用ヲ以テ大体ヲ統一スル
ト為サバ實務上ニ害ナクシテ且ツ總裁其人ノ德ヲ累ス
ニ至ラズ大ニ經濟界ノ調和ヲ得ルノ良策ナラント信ス

ルモノナリ

上來陳フル処之ヲ要スルニ國家應急ノ財政策トシテハ
低利外債ヲ募集シテ戦後經營ノ完成ヲ期スルト共ニ大
ニ生産事業ヲ振興シテ國力ノ増進ヲ計リ台湾ノ經營ハ
獨立自治ニ任セテ速ニ治蹟ヲ舉ケ以テ外侮ヲ防キ日本
銀行總裁ノ地位ヲ安固ニスル為メ理事合議制度ニ改メ
以テ經濟界ノ調和ヲ謀ラン、一ヲ熱望スト云フニ過サル
也

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

